

アクアパトサイド® による院内感染防止対策マニュアル

手指	器具類	エアータビン コントラハンドピース類	リーマーファイル類	印象物・石膏・義歯	バキュームチップ プラスチック製品	スプイトン 排水パイプ	ユニット キャビネット等	床・スリッパ等	白衣・リネン類	内視鏡
<p>1 石鹸等の洗浄剤で、手指の有機物を除去</p>  <p>2 アクアパトサイドで、手指の隅々までよく擦りこむように洗う ※グローブ着用=10秒 ※素手=30秒</p>  <p>3 滅菌ペーパータオル等で拭き取る</p> 	<p>1 洗浄剤の洗浄剤で器具の血液・石膏・印象等を除去</p>  <p>2 洗浄剤を満たした超音波洗浄器に、器具を入れ5分間処理 ※浸漬の場合は10分以上</p>  <p>樹脂製の容器にアクアパトサイドを満たした器具類を入れ、約5分間浸漬 ※処理毎に9pアクアパトサイドは交換する事</p>  <p>4 すぐに水道水・防錆剤等で中和後、滅菌・乾燥処理へ ※錆に注意</p> 	<p>1 洗浄剤で有機物を拭き取る</p>  <p>2 アクアパトサイドを十分に浸したタオル等で、対象物をよく拭き取る</p>  <p>3 上記拭き取り後、滅菌タオル等で拭き取る。錆びやすい場合は、エタノール等で再拭き取りし、防錆処理 ※ベアリング部の錆に注意</p> 	<p>1 シャレー等のガラス容器に洗浄剤を入れ、浸漬(10分程度)</p>  <p>2 その後、アクアパトサイドにて浸漬(3分程度) ※スチール系は腐食に注意 ※患者に行うこと ※アクアパトサイドは毎回交換すること</p>  <p>3 ラスノン等の防錆剤に浸漬し、そのまま保管</p> 	<p>1 少し乾燥させてから十分に水洗。血液等の汚れのひどい場合は洗浄剤で洗浄</p>  <p>2 アクアパトサイドをまんべんなくスプレー</p>  <p>3 水洗してから乾燥工程へ</p> 	<p>1 充分に水洗。汚れのひどい場合は洗浄剤に浸漬</p>  <p>2 アクアパトサイドに5分浸漬 ※長時間浸漬もOK(錆びない素材に限る)</p>  <p>3 そのまま乾燥する</p>  <p>バキューム内 アクアパトサイドを500cc吸引させ、その後必ず水道水を1000cc吸引させる</p> 	<p>1 洗浄剤を500cc流し込み、5分間放置</p>  <p>※その後、においがきつい場合アクアパトサイドを500cc流し込む</p> <p>2 1000ccの水道水を流し込む</p>  <p>外科処置で血液等が飛散した場合 有機物除去。その後、アクアパトサイドのエットタオルで清拭 ※金属・メッキ部分にはアクアパトサイドは使用不可 ※金属面に触れた場合、防錆剤で中和する</p> 	<p>1 有機物(血液・唾液等の汚れ)を拭き取る</p>  <p>2 アクアパトサイドをスプレーで吹きかける ※金属・メッキ部分にはアクアパトサイドは使用不可 ※金属面に触れた場合、防錆剤で中和する</p>  <p>3 10秒後、滅菌タオル等で濡れた面を拭き取り、乾燥</p> 	<p>1 洗浄剤を浸したタオル・モップ等で汚れを拭き取る</p>  <p>2 アクアパトサイドを浸したタオル・モップ等でスリッパ・床等を拭く</p>  <p>あらかじめ有機物を除去した床面を、アクアパトサイドを流しながら拭き取る</p> 	<p>1 洗浄剤に10分以上浸漬</p>  <p>2 アクアパトサイドに10分以上浸漬しておく ※金属・メッキ等のボタン・飾りが付いている場合は、アクアパトサイドの使用を控えること ※多少の漂白作用がある為、色物などの場合は注意すること ※バケツの水は毎回交換する</p>  <p>3 通常通り洗濯機で洗濯後、乾燥する(洗濯後、必要に応じて滅菌処理へ)</p> 	<p>1 洗浄剤の入った容器へスコープ・付属部品やマウスピースを浸漬する ※吸引管路に洗浄水を吸引させる</p>  <p>2 アクアパトサイドの入った容器へスコープ・付属部品やマウスピースを浸漬する(5分間) ※吸引管路にアクアパトサイドを吸引させる</p>  <p>3 スコープ・付属部品を容器に移し水道水で水洗する ※吸引管路に水道水を吸引させ水洗する</p> 

臨床学的応用		応用症例		家庭応用		使用上の注意	
<p>表皮腐使用法</p> <p>1 皮膚の汚れを十分とる</p> <p>2 アクアパトサイドをポリエステルガーゼなどに浸し、患部へパッチングする</p> <p>3 アクアパトサイドを水がしたたるようにたっぷりとし、スプレーする</p> <p>4 清潔な乾布で軽く拭取り、保湿剤を塗布する</p>	<p>口腔内での使用方法</p> <p>1 口腔内の汚れをとり、のぞく</p> <p>2 10cc以上のシリンジにて患部をよく洗浄する</p> <p>3 洗剤あるいはうがい剤として用いる 又、ブラッシング時に使用させる(水はみがき)場合には歯ブラシ等を指導する</p>	<p>根管内での応用</p> <p>1 アクアパトサイドで根管洗浄をする(根管通過法) 10cc以上のシリンジ使用</p> <p>◆患者毎にリーマーファイルは消毒し乾燥保存する</p>	<p>除石への応用</p> <p>1 超音波スケーラーには外部注水型を用い、アクアパトサイドを注入しながらスケーリングする</p> <p>2 スケーリングのあとにアクアパトサイドで洗口する</p>	<p>○アトピー性皮膚炎</p> <p>○尋常</p> <p>○外科処置</p> <p>○手術時の止血</p> <p>○ちくのう症</p> <p>○白内障・結膜炎</p> <p>○水虫</p> <p>○口内炎・歯周病</p> <p>○歯槽膿漏</p> <p>○胃・十二指腸洗浄</p> <p>○難治性疾患</p>	<p>○洗顔・化粧水として</p> <p>○洗髪</p> <p>○ブラッシング</p> <p>○洗口剤として</p> <p>○手洗い用洗浄水</p> <p>○野菜・魚の洗浄など各種衛生管理に</p> <p>○ふきん・まな板の洗浄</p> <p>○動物・ペットの洗浄</p> <p>○衣類の洗濯</p> <p>○ケガの消毒</p> <p>○火傷</p>	<p>1 アクアパトサイドは必ず添加剤を入れたものを使用する</p> <p>2 活性化後のアクアパトサイドのポテンシャルは、開放容器で1日、密閉容器内で1週間~10日位、密閉容器内で冷蔵または冷暗所保存の場合およそ1ヶ月前後で失効します</p> <p>3 アクアパトサイドが長時間金属に触れていると錆が生じるので処理後は水洗い、あるいは防錆剤処理を行う</p> <p>4 アクアパトサイドを消毒に用いる場合、あらかじめ洗浄剤で血液やタンパク等の有機物の除去をしておくこと</p> <p>5 アクアパトサイドによる消毒効果を得るには、汚物(液性)の同液に対する100倍の希釈倍数が必要である</p> <p>6 アクアパトサイドは非金属製の容器(ガラスあるいはプラスチック)内に保存する</p> <p>7 溜め置いて使用する場合は、適時市販の試験紙、あるいはヨウ化カリウムテンブン紙等でポテンシャルを確認して用いること</p>	

! このマニュアルはアクアパトサイドによる作用機序、液性に基づき作成されたものです。したがってアクアパトサイド以外の酸性水、機能水とは作用機序が異なる為、このマニュアルの応用は出来ません。